

新潟市議会報告は、新潟市民の皆様にも市政の取り組みや議会活動をわかりやすく報告し、市政に関心を持っていただくために発行しています。この市政報告紙は政務活動費で発行しています。

# 中原新市長には、これ以上将来世代に借金のツケを先送りしないことを求める

### 360億円以上あった貯金は、そのほとんどを使い果たし、借金はおよそ1兆円に膨れ上がっている。今年度は予算を組むにも120億円足りず、借金返済の先送りと行政サービスのカットで乗り切ったが、来年度予算編成も同様の恐れがある

選挙で当選した市長が、どんな政策をどんな優先順位で進めようと民意を反映している以上、任されて然るべきだと思います。しかしこれ以上借金を重ね、将来世代に負担を強いることは許されません。

新潟市は近隣14市町村との合併を経て、平成19年政令市へと移行しました。しかし合併から今年で12年、現在の新潟市は、どんなに予算が足りなくても、これ以上貯金を取り崩したり、借金に頼ることが出来なくなっていました。今年、平成30年度は約4000億円の予算を組むのに、実際に約120億円足りませんでした。4000億のうちの120億円ですから、一見たいしたことではないように感じるかも知れませんが、そのほとんどは固定経費などで、既に行き先や使い道が決まっています。調整できるのはごく一部なのです。その結果、行政サービス全1200事業を一律に見直してカットするという禁じ手を使いました。例えば自転車通学の中学生のヘルメットに対する補助、ひとり親家庭に小学校の入学祝として贈られていた図書カードの配布、100歳を迎えた高齢者に贈るお祝い品の減額廃止等です。また今年5月には女子児童の殺人死体遺棄という痛ましい

事件が発生したことを受け、再度予算づけしましたが、こういった小学生が登下校時に事故や犯罪に巻き込まれることを防ぐ対策を講じるため、小学校に警察官OBを派遣する事業であるスクールガードリーダー制度の100万円にも満たない予算にまで手をつけ、ようやく削り出したのが約45億円でした。それでも足りない残りの分は、借金の返済を先延ばしして乗り切ったのです。

前市長の篠田氏はこうなった理由に、政令市移行の際に施した大規模な公共工事を挙げています。しかしそれは、「貯金を取り崩し、借金までして公共投資をしたけれど、地価も税収も上がらず失敗した。」と言っているのと同じことです。確かに行政の借金は問題視するべきではない、との理論もありますが、現実はこのように市政運営に影響が出ています。

新市長は、今回の選挙で有権者から市長に選ばれたからといって、18歳未満の市民やこれから生まれる未来の新潟市民に負担を掛ける権限が与えられた訳ではありません。実は全国的に見れば新潟市のような状況は稀で、全国の自治体の基金残高(貯金)の総額は史上最高となっており、将来に備

えしっかりと準備を進めているのです。決して不可能な要求ではありません。まずはこのことを心にとめて、BRTをはじめとする市民理解が得られないばかりか、市の発展に資するとは考えにくい事業の中止に着手して、誠実に責任を果たして頂くことを望みたいと考えています。



●新潟島、最後の岩だった新潟三越が2020年3月閉店



●BRTは市民調査の結果「評価しない」が7割を超えた

## 平成30年度9月定例会での取り組み

### 篠田昭 前新潟市長としては最後の議会となった9月定例会で審議され決定した結果等について報告致します

#### 通学路の安全対策

5月に西区で下校中の女子児童に対する殺人死体遺棄という痛ましい事件が発生しました。このような悲しい事が再び繰り返されることのないよう、地域の安全対策への取組みを強化しました。

●子ども見守り活動支援や、防犯カメラの設置に対し、地域活動補助金の緊急枠を増設。

●通学路の安全マップ作成、スクールガードリーダーの活動予算の復活、防犯啓発看板の設置。

また、6月に発生した大阪府北部を震源とする地震では、ブロック塀の倒壊により二人の尊い命が犠牲になっています。地震発生時、特に通学路における児童の安全確保の重要性から、危険な状態にあるブロック塀の撤去工事の費用補助を行います。

●通学路沿いの危険なブロック

塀の撤去に対する補助制度の創設、学校など市の施設にあるブロック塀の撤去。

#### 新潟市の行政改革

本格的な人口減少、少子・超高齢化の到来や国際化・高度情報化社会など市民生活に直結する課題の多種多様化や公共施設の老朽化に対応しつつ、市民サービスを維持・向上させ、市民が安心して

暮らせる「安心政令市にいがた」を確立していくには、持続可能な財政運営は欠かせません。

これまで以上に行政改革を徹底し、限られた財源の有効活用により財政の健全化を図るとともに、市役所組織の適正化にも取り組む必要があります。

このことから次期行政改革プランの策定を前倒しで行い、将来を見据えた改革に着手しました。

#### 将来への責任を果たしてまいります。

新しいものをつくり続ける見せかけの発展、使えるものを壊していくだけの改革、市民不在の名ばかりの文化芸術イベント。ムダな行政に向けられた市民の不安や危機感をしっかりと受け止め、将来への責任を果たします。

#### 新潟市議会議員

# 深谷しげのぶ

公式サイト <http://fukaya-s.net>

発行 / 深谷しげのぶ事務所

〒950-0081 新潟市中央区三和町6-11 (ピアBandai万代島鮮魚センター入口正面) TEL 025-378-0177 FAX 025-378-0178

〒950-0088 新潟市中央区万代6-6-4トラパレス101号

新潟市議会議員【中央区】 深谷しげのぶ ●環境建設常任委員 ●観光交流促進調査特別委員



# 新潟市は本当に大丈夫なのか!? 残り任期三か月で海外出張に92万円!これは卒業旅行では?

## ～市長の任期満了直前での海外出張の是非について～

市長は、8月22日から2泊3日の日程で、韓国と中国へ海外出張に出かけました。これは新潟県知事の出張に同行したもので、各地の航空会社や旅行エージェントに対するトップセールスとのこと。しかし、残りの任期が三か月を切った市長が、わざわざ知事に同行して海外に出掛けることの必要性が理解できないことから質問しました。

### 質問

厳しい財政状況の昨今、我々議員の政務活動費の使途については、市民から非常に厳しい目が向けられている。特に海外視察に関しては、実施の是非も含め様々な意見が寄せられている。そんな中、もし残り任期三か月の議員が海外視察に出掛けようもの

なら、訴訟問題にまでなりかねない。勿論、議員視察と市長の出張を同列では論じられないが、本年度の予算は財源不足から市民サービス関連の予算を切り捨ててようやく組んだものだ。そこから絞り出し、削り出してまで行く必要性に、市民理解が得られるとは思えない。どうしても市長が県知事に同行しなければならなかった明確な理由と、それによって得られた具体的な成果は何か。

### 答弁 篠田市長

知事とともに県市が一体となって新潟の拠点化・活性化を進める姿を明確にアピールする点で意義があった。港湾・空港・交通体系の拠点性の向上など、県と多くの課題を共有している。そのトップが力を合わせ、率先して取り組む姿勢を示すことは有意義

であり、今後の連携につなげることができたと考える。大韓航空と中国南方航空から増便に前向きな意向が示され、韓国の旅行エージェントからインバウンド振興に有益な意見を聞いた。また、ハルビン市長とも面会し、来年友好提携40周年を迎える両市の交流活性化についても話げできた。渡航費用と比した効果を直ちに明確に示すことはできないが、手ごたえは感じている。

残念ながら、これは訪問先の社交辞令の伝聞でしかありません。市長が同行した必要性は勿論、得られた成果についても曖昧なままです。こんなことなら今回は県知事にお任せして、新潟市としては機会を改め、新しく選ばれた市長のもと、取り組むべき課題と考えます。

# 皇族写真を市長自身の後援会報に掲載! 違法でさえなければ許されるのか?

## ～皇室のご威光を、私的な宣伝活動に利用することの是非について～

「海フェスタ」は海の恩恵に感謝し、海洋国日本の繁栄を願う日として制定された「海の日」を祝うイベントですが、毎年、海にゆかりのある自治体で開催されています。今年は新潟港と両津港で、7月14日から29日の間、「海フェスタにいがた」として

開催され、オープニングパレードやブルーインパルス展示飛行など、大盛況の幕開けとなりました。19日には秋篠宮同妃両殿下ご臨席の上、記念式典と記念祝賀会が盛大に開催されました。しかし、あろうことか市長は、この時の様子を収めた写真

を自身の後援会報に掲載し、自身の宣伝活動に利用しているのです。いくら退任を発表したからとはいえ皇室の政治的な利用は、厳に慎まなければならないと考えることから質問しました。

### 質問

先日、私の自宅に届いた「青空」という市長の後援会報には、「4期で退任 16年のご支援に感謝」と題した篠田市長のメッセージが綴られていた。しかしながらここに、「海フェスタにいがた」の式典にご臨席された秋篠宮同妃両殿下と、市長と一緒に写った写真が掲載されていた。これは明らかに政治的なPR活動に、皇室のご威光を利用し

ようとするものだ。しかも撮影禁止の会場であったことを考え合わせれば、この写真は市長の立場を使って、市の広報から入手したことが明白である。このように個人的な利益や、自らの威厳付けに皇室を利用するなどは以ての外、不敬と言わざるを得ないが、このようなことに及んだ理由を伺う。

### 答弁 篠田市長

このたびの「海フェスタ」は、日本最大の海事イベントであり、私の最後の年の最大の行事である。そのような機会に皇族の方々にご臨席を賜り開催できた喜びを、支援者と分かち合いたいとの思いから、会報で届けたものだ。この写真の入手については、市民から要請があれば提供できるものと認識していた。反省すべき点があるのではないかと問われれば、配慮が足りなかった部分があるかもしれない。

## しのだ昭 後援会 あきら会 にいがた広域懇話会



▲秋篠宮同妃両殿下をお迎えした「海フェスタにいがた記念式典」であいさつする篠田昭市長＝中央区りゅうとびあで

●篠田昭後援会会報表紙にキリヌキで掲載された自身と秋篠宮同妃両殿下

答弁内容としては物足りないように感じたものの、配慮不足を認めるなど、一定の成果は得られたように感じています。皇室に対する考えは、当然、人それぞれであって然るべきです。しかし自治体の首長という立場であれば、それとは別にある程度の節度や礼儀が求められるものと思います。また、平成27年2月議会では、こういうやりとりもありました。天皇陛下におかれては、民間社会福祉事業奨励のおぼしめしをもって、政令市の優良な福祉施設・団体に対し金一封を下賜されています。しかし新潟市は政令市に移行して以来、その当時で8回中7回、その伝達式を副市長が市長に代わって務めていました。そのことを糺しても、たまたま市長の日程が取れなかったなどと言い訳する答弁でした。ところが、毎年、実施日も時間帯もバラバラなことを指摘すると、今度は一転、そこまで思いが至らなかったと、反省の市長答弁があったのです。その後、平成27年以降は市長自身が伝達式を担っていますが、今回の一連の対応を見るにつけ、やはり皇室を軽んじる体質は変わっていなかったということなのだと感じました。